



2008年7月25日
 発行人：伊藤 忠彦
 編集：広報渉外・庶務ユニット
 発行所：学校法人クラーク学園
 〒229-8522
 神奈川県相模原市青葉2-2-1
 電話 042 (754) 1133

仕事の良し悪しだけでなく どのように仕事に取り組むかである



和泉短期大学 学長 伊藤 忠彦

「職業に貴賤はない」。若いころ、こう語るのを聞き、感心した記憶があります。職業に上下の別はないと言うのです。

その頃、だいぶ少なくなりましたが、学校の先生を聖職者と呼んで尊敬の意を表している人がいました。それでは、聖職という言葉が死語になったので、職業に対する差別や、職業の価値のランキングが無くなったかと言うと、そうではないのです。

今でも、高額所得につながる職業が良い職業とされ、低収入の仕事や、3K(きつい、きけん、きたない)に関する仕事は敬遠され、価値のない仕事であるかのように見做される風潮は変わりません。

ちよつと考えれば、このような風潮は自然のことだと言えます。多くの人が、収入がよ

く、きつく、きげんでない仕事に傾くことは自然なことです。

しかし、いわゆる、良い職業に就くことが必ずしも幸せなでも、全てでもありません。

社会には、いわゆる低収入でつらい仕事を本気で、この仕事は自分に与えられた仕事、職業だと信じて取り組み、しかも、幸せでいる人が少なからずいるのです。そして、そうなった経緯も理由もいろいろです。

プロテスタント教会の祖マルチン・ルターは、ドイツの庶民のそれまでの職業観を大きく変えた人です。それまでの仕事を表す「アルバイト」を、それまで教会の僧職にだけ使われていた「ペルーフ」(神の命による仕事)を用い、仕事を天職、使命にかかわる事としたのです。職業をこのようなものとし、仕事に取り組んでいる人を、私は何人も知っています。

また、本学の学生を見ても、多くは、子どもたちの為に、施設、保育所、幼稚園で働こうと志を抱いて学び、今もなお、働き続けていることは本学の誇りです。

わたしは、仕事に向かうにあたって思い起こすヤヌシユ・コルチャックの言葉があります。

聖句
 「主はわたしたちを造られた。
 わたしたちは主のもの、その民
 主に養われる羊の群れ。」
 詩篇 100篇3節

「大切なのは、どんな遊びをするか、ということではありません。どのように遊ぶか、ということですよ。」

牧師であるわたしが、牧師であることそのことよりも、どのような牧師として生きるかが大切だといわれているのです。

ヴィクトール・フランクルは、「自分の人生は自分を生かし、満足できる職業に就いていたら、こんな風にはならなかつたらう」と語る患者にふれ、「この人にとつての問題はどんな職業につくかではなく、その人が、どのような職業を生きるかである」と書いています。(死と愛)

退任のことば

前理事長 平 良

私の理事長としての仕事は三期十二年間に及びました。私のクラーク学園との関係は、四十年以上にわたります。短大の設立に関わり、短大開設当時は非常勤講師としてつとめ、その後評議員となり一九七八年に理事、一九九六年以来理事長を務めて来ましたが、その間非力ながら幸運に恵まれ、又周辺の理事、評議員に支えられて今日にいたりしました。理事長の

時代にはパイプオルガンの設置、運動場の購入、体育館の建設と五十周年記念を祝うといった大変にはなやかな時代を過ごすことになりました。これは私が全く良い時期に理事長であったといえますが、私の力によるものというより、先輩や同僚の支えがあったことによるものであります。

理事長にせよ学長であるにせよある個人があまりに長い間その職にあるのは良いことではなく、せいぜい二、三期で代わるものであると考えていましたし、理事・理事長にも定年があつても良いと考えて来ましたが、それに私も八十才を超えて体力的に衰え、この二・三年は特に病気を重ね迷惑をかけてしまつてもいました。

長い間クラーク学園に居たことでもあり、そこを離れるのは淋しいことではあります。又特に短大が困難な時代に入っていること、専門学校が必ずしも順調に成長しているわけでないことが分かつている時にそこを離れることは心苦しいことでもあります。しかしクラーク学園は個人の思惑を越えて成長して行くものと信じてその仕事から離れ、活力のあふれた方々に後事を託すことが必要だと思います。私としてはかたわらにあって今後の発展を祈つて行きたいと思っております。そして、主のみ守りによって樹てられた学園がその志を強くして発展して行くものと信じています。いつまでも変わらない学園であることを信じて私は職を離れたいと思います。

和泉短期大学

『大学の教育的質を社会に公表』

教務部長 ALO 武石宣子

和泉短期大学は平成19年度に、第三者評価(認証評価)を文部科学大臣から認証評価機関として認証された(財)短期大学基準協会より、「適格認定」の評価を受けました。

本校は、平成8年7月17日の教授会において「和泉短期大学自己点検・評価委員会規程」の制定を議決し、この規程に基づいて既に自己点検・評価を行っていました。これまで部局中心の自己点検・評価項目に従い実施してきましたが、平成16年度からは、ALO (Accreditation Liaison Office) (第三者評価連絡調整責任者)を導入し「短期大学基準協会が実施する第三者評価の要綱」に設定された評価基準に基づいた10の評価領域、32の評価項目、144の評価の観点からなる三層構造による自己点検・評価を行い、平成19年度第三者評価を受けるための準備を整えました。具体的な報告書の作成は、①事実を誠実に簡明・適切に記述、②学内全ての関係者が参画、③記述の評価と統計的資料に基づく評価、④作成マニュアルで問われている事柄に則り記述、以上を特に重視いたしました。そして学長の指導により、学長補佐としてALOが報告書作成の総括をいたしました。

評価員チームは5名で構成され、1日目は夕刻より評価員の宿泊先で事前打合せ、2日目は面接調査・学内視察、3日目は面接調査・評価員会議等、充分時間をかけ綿密な調査が

展開されました。本校は、過去10回にわたる自己点検・評価報告書の作成及び公表をし、日本私立短期大学協会・キリスト教学校教育同盟等を通じ、法人や学校単位での交流をしてきました。教職員の間では、学会・協議会・研究会を通しての交流があり、また平成15年度には、大阪キリスト教短期大学との相互評価が行われています。しかし今回の第三者評価にかかる一連のプロセスは、これまでのこうした交流をはるかに越えた経験となりました。関係するすべての人々に緊張感を与え、キャンパス内コミュニケーションの推進に寄与し、同時に新しい発見を得、問題意識を共有し、多くのことを学ぶことができました。特に理事長、学長、事務局長の絶大なサポートが得られたことは高い評価に値すると感じています。ALOの役割についても、関係者皆に理解が得られるまで時間が必要でした。全てがほぼクリアになり、第三者評価を無事終えることができましたことを心より感謝すると共に、ここに御礼申し上げます。

財団法人 短期大学基準協会
適格認定マーク



ACCREDITED
2007

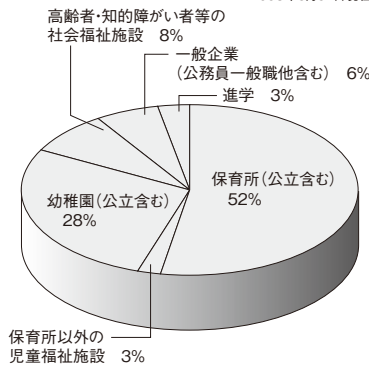
本校は平成19年度(財)短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定されました。

短期大学の進路状況報告

一人の女性が生涯に産む子どもの平均数の推計値である合計特殊出生率が2年連続上昇し、平成19年は前年比0.02増の1.34となったことが、厚生労働省の人口動態統計で分かりました。要因としては30歳代以上の出生率が上がったことなどですが、今後の出生率の動向は不明で、長期的に人口減少傾向が続くと見なされています。保育所の待機児等の諸問題や就職の採用に関する雇用形態の変化、既卒者の転職の増加なども含め、今後の就職指導に影響を与えるのは必至の状況となっています。しかし本校においては本年3月の卒業生326名のうち、就職・進学希望者で保育・福祉職として279名が就職し各分野でのこれからの活躍が期待されています。

2007年度就職・進学決定者状況

2008年3月31日現在



教職員永年勤続者表彰

2008年度の永年勤続者の表彰が去る5月12日、創立記念礼拝の際に行われ、永年勤続三十一年加藤正春氏と永年勤続十五年 栗林直樹氏・平塚豊氏、川上美智留氏の計四名が表彰されました。

● 新任紹介



「素晴らしい学生たち」
専任講師 大下 聖治

私が初めて和泉短期大学の非常勤講師として学生の皆さんの前に立ったのは、1994年4月でありました。当時はまだ自前のテラコートや体育館も無く、現在教職員用の駐車スペースとして使用している原っぱや、本館の教室を使用して授業(体育実技)を行っていました。当初はさすがに「これは困ったぞ」の思いが強く、毎週の授業進行について、頭を悩ませておりましたが、それも十数年目に亘って和泉短大に携わってこれたのは「素晴らしい学生たち」だからです。当時現在もそうですが、和泉短大らしい母校の先生や仲間たちに聞かれると、必ずと言って良いほど「第声は」とにかく学生たちが素晴らしいです。それを聞いた人たちは様に羨ましがっていた事を昨日のように思い出します。その和泉短大に今年度より専任として迎えて頂いた事を大変嬉しく思っております。どうぞ末永く宜しくお願いいたします。

〈略歴〉

日本体育大学大学院修了後日本体育大学コーチ学研究室助手となる。慈恵会医科大学に研究員として、和泉短期大学、関東学院大学、神奈川大学等に非常勤講師として携わる。



『再び和泉へ』
助教 中野 陽子

4月より、実習ボランティアセンター1で勤務させていただいております。野陽子と申します。十数年前に和泉を卒業した時には、再びこうして母校のお世話になるとは夢にも思いませんでした。学生時代にお世話になった先生方とともに働かせていただくことが、嬉しくもあり、嬉しくもあり、不思議な気持ちで交錯しております。私が和泉の学生だった頃は、また実習ボランティアセンターはありませんでした。しかし、施設現場を経験した後に編入した大学では、再び実習を経験し、実習センターの先生方にもお世話になりました。それらの経験を思い返し、教科書にはない実践的な学びができる実習を求めているように、同じく和泉出身の齊藤先生とともに実習ボランティアセンターより支援させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

〈略歴〉

和泉短期大学卒業後、知的障がい者通所授産施設で7年間勤務。その後2004年4月、日本社会事業大学福祉援助学科編入学、2006年3月卒業。2006年4月、日本社会事業大学社会福祉学研究所入学、2008年3月同大学院修士課程修了。

二〇〇七年度 短期大学教員研究業績

武石宣子教授

〔受大会発表等〕

「フロンティア・ブックス」一般教育学の歴史の総括を
試みる(その3)〔共同企画〕
大学教育学会第29回大会(東京農工大学) 2007年6月

中島弘光教授

〔芸術活動等〕

「ハコベル関東大会(出演・リリリン・リリリンガールズ)」
ハコベル連盟主催 青山学院講堂 2007年4月30日
和泉短期大学チャペルコンサート(中島弘光退職
記念ミニコンサート)
和泉短期大学主催 和泉クラクホール 2008年1月21日
「ユナイテッドコンサート」
南星柳多シシ連盟主催 南星柳多文化会館 2008年1月28日

共同

「和泉短期大学チャペルコンサート(中島弘光退職
記念ミニコンサート)」
和泉短期大学主催 和泉クラクホール 2008年1月21日

中村美津子教授

〔著書〕

「保育実習指導のミラモスタンダード」一現場と
養成校が協働して保育士を育てる」
北大路書房 2007年9月15日

〔学会発表等〕

「短期大学における教員養成のあり方について」
第1次報告」日本私立短期大学協会教育関係
学科に関する検討特別委員会 2007年7月12日

原田康子教授

〔著書〕

「体験実践事例に基づく保育内容環境」II 体験実
践事例に基づく保育内容「環境」の実践5章 季節
の草花でおもしろ遊びを楽しく」草花遊び」
保育出版 2008年3月5日

井狩芳子准教授

〔著書〕

「医師・看護職のための乳幼児保健活動マニュアル」
健康・体力増進対策」文光堂 2007年9月

〔論文等〕

「和泉短期大学における子育て支援事業の活動
報告」第2章「子育てQ&A」の報告」
和泉短期大学研究紀要 2008年3月

〔学会発表等〕

「幼児の心身の健康に関する研究(第5報)」
日本保育学会第60回大会(埼玉・十文字学園女子大学)発表論文
日保育学会第60回大会(埼玉・十文字学園女子大学)発表論文
2007年5月

〔著書〕

「幼児の就寝起床時間と生活時間」保育園児と幼
稚園児の特徴」第54回日本小児保健学会講演集
(群馬・群馬県民会館・前橋商工会議所(会館))
2007年9月

櫻井奈津子准教授

〔著書〕

「新版 保育士をめざす人のための児童福祉」
第6章 児童養護サービス」
みらい 2007年4月

〔著書〕

「新版 保育士をめざす人のための養護原理」
第8章 里親の現状と活用」
みらい 2007年4月

〔編著〕

「養護原理」執筆担当」第3章 社会的養護の
提供」児童福祉施設と里親」第7章 これ
からの児童養護」
青路社 2008年3月

〔論文等〕

「養育家庭制度の発足と養育家庭センターの果た
した役割」里親養育への支援のために」
東京短期大学 2007年6月

〔学会発表等〕

「和泉短期大学における子育て支援事業の報告」
和泉短期大学 2008年3月

〔著書〕

「生命を育む乳幼児の権利保護とは」
三重県社会福祉協議会 2007年9月

〔著書〕

「児童虐待と子どもの権利」
三重県社会福祉協議会 2007年10月

〔著書〕

「気つきにくい児童虐待」
三重県社会福祉協議会 2007年11月

〔著書〕

「少年犯罪いじめと児童虐待」
三重県社会福祉協議会 2007年12月

佐藤守男准教授

〔著書等〕

「塑像における彫刻」FRP技法」(第3報)
和泉短期大学研究紀要 2008年3月

〔著書〕

「SCULPTURE2007」
国画会彫刻部 2007年5月

〔著書〕

「グループレポート」現代彫刻の風景」
ギャラリーせいほう 2008年1月

〔著書〕

「第2回」乾漆による」松峯会彫刻展」
松坂屋本店 2008年2月

〔著書〕

「雨夜の月」乾漆 第81回回展」国立新美術館 愛知県美
術館ギャラリー」大阪市立美術館」佐藤守男個展」光
画廊」グループレポート」第3回展」ギャラリーせいほう
2007年5月6日/2007年11月/2008年
メメント・モリ」乾漆 第31回キリスト教美術展」日本基
督教団銀座教会東京福音センター」第2回」乾漆に
よる」松峯会彫刻展」松坂屋本店
2007年6月/7月/2008年2月/3月

〔著書〕

「僕の詩」ブロンズ 佐藤守男個展」光画廊 2007年11月

〔著書〕

「天の窓」ブロンズ 佐藤守男個展」光画廊 2007年11月

〔著書〕

「聖餐」乾漆 YEAR-END EXHIBITION OF MINSOULPTURE
ギャラリーせいほう 2007年11月

〔著書〕

「遠くに見えるもの」ブロンズ 学芸員課程学生企画展「モノ・ロム」
東京純心女子大学 純心ギャラリー 2009年12月

〔著書〕

「僕の詩」乾漆 第2回」乾漆による」松峯会彫刻展」
松坂屋本店 2008年2月/3月

〔著書〕

「流星群911」乾漆 グループレポート第3回展
ギャラリーせいほう 2008年1月

〔著書〕

「女の首」乾漆 第2回」乾漆による」松峯会彫刻展」
松坂屋本店 2008年2月/3月

〔著書〕

「高齢者福祉論」高年齢者保健福祉と計画」
光生館 2007年4月

〔著書〕

「臨床に必要な居住福祉」社会福祉政策と住宅政
策」障害者と居住環境」弘文堂 2008年2月

〔著書〕

「福祉サービスにおける苦情解決体制に関する研究」
和泉短期大学紀要 2008年3月

〔著書〕

「世界の社会福祉年鑑2007」イギリス 社会福祉の
現状」高年齢福祉」旬報社 2007年12月

〔著書〕

「社会福祉教育を促した初年次導入教育の検討」
日本社会福祉教育学会第3回大会北海道」北星園大学
2007年11月2日/3日

〔著書〕

「社会福祉教育研究における課題に関する研究」
日本社会福祉教育学会第3回大会北海道」北星園大学
2007年11月2日/3日

財団法人母子衛生研究会 2007年9月

塩谷香専任講師

〔著書〕

「子育て支援 山岸道子、田中利則、町田和子編
著」第3章 第1節、第2節」
大学図書出版 2007年10月

〔論文等〕

「低年齢児保育実践における家庭との連続性について」
和泉短期大学紀要第28号 2008年3月

〔学会発表等〕

「家庭支援と保育をつなぐ(3) 保護者へのアプロ
ーチの実践」
日本保育学会第60回大会発表論文集 日本保育学会
2007年5月

〔著書〕

「要保護児童養育の国際比較」6章 韓国の
養育制度と実態」
日本加除出版 2007年9月

〔論文等〕

「社会福祉専門職と男女共同参画」
和泉短期大学紀要 2008年3月

〔学会発表等〕

「韓国の里親制度と里親会」子どもの権利条
約の実現をめざして」
日本社会福祉学会(大阪市立大学) 2007年9月

〔著書〕

「世界の社会福祉年鑑2007」国際ソーシャル
ワーカー連盟(I.F.S.W.)世界会議」
旬報社 2007年12月

〔著書〕

「新時代の保育双書 発達心理学」子どもの発達と
子育て支援」第2章 赤ちゃんの誕生」
みらい 2007年4月

〔著書〕

「新時代の保育双書 発達心理学」子どもの発達と
子育て支援」第5章 知的発達」その意味と保育
者の関わり」
みらい 2007年4月

〔著書〕

「ベシック社会福祉第4巻 障害のある人の支援と
社会福祉」障害者福祉入門」第5章「障害のある
人の暮らしを支える法制度の体系」第6章「障
害のある人の生活基盤を支えるサービスの体系」
ミネルヴァ書房 2008年3月25日

〔論文等〕

「和泉短期大学における子育て支援事業の活動報告」
和泉短期大学研究紀要 2008年3月15日

〔著書〕

「福祉サービスにおける苦情解決制度に関する研究」
和泉短期大学研究紀要 2008年3月15日

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔著書〕

「子どもを育てる」もつと おさんぽ」
ミネルヴァ書房 2007年8月

〔順不同〕

永年勤続表彰者より①

勤続30年を振り返って

経理・施設ユニットサブリーダー

加藤 正春
(勤続三十年)



去る5月12日、チャペルアワーにて永年勤続30年と15年の表彰式が礼拝終了後行われ、平理事長より表彰楯及び、賞金、記念品を頂きました。

クラーク学園に勤め始めたのは新校舎移転1年後の1977年の後期からです。30年を振り返れば、様々な出来事が走馬灯のごとく蘇り、懐かしさが募ります。

たとえば、スクールバスの送迎を8年間程行った時等、学生数がもつとも多い時期で定員オーバーを隠すため、色々な工夫したりと、今では想像を絶する怖い体験でした。その後管財課(現経理・施設ユニット)に配置転換させて頂き、20数年の間に、クラーク・ホール建設、又、総合グラウンド購入、体育館建設と施設の面等で数多くの仕事に携わらせて頂きました。

30年前は、財政も厳しくとても現在の施設が出来るとは、夢のようです。日々の節約と努力の積み重ねだと思えます。クラーク学園がこれからも、益々の発展を遂げるよう努力して参ります。

永年勤続表彰者より②

空気を吸い続けた26年間

教育・学習支援ユニットリーダー

栗林 直樹
(勤続十五年)



視覚障がい者用の点字出版所「東京ヘレン・ケラー協会」を退職して失業保険で暮らしていた昭和57年の5月頃です。朝日新聞の求人欄を毎日チェックしていた私の眼に「大学事務職員募集」の文字が飛び込んできました。学生時代に林竹二氏や灰谷健次郎氏の著書に影響を受け、教育を陰から支える仕事に就くことを熱望していたので狂喜乱舞の出来事でした。書類を提出してから1ヶ月以上待つ筆記試験と面接を受け、また1ヶ月以上経ってから「不採用通知」を頂きました。それから2ヶ月程過ぎてから再接触をすると連絡がありました。

採用内定された方が取り消される事態が発生したそうです。再接触では当時の花村学長から「うちはキリスト教主義だがどう思つかね」と聞かれたのを覚えています。道路を隔てた学校前は使用放棄された米軍の所有地で、草が生い茂り今とは隔世の感があります。最初に担当させて頂いたのは学生課での就職指導でした。自分が新卒の時と転職の時に仕事探して苦労した体験を活かされたのが幸いでした。途中空白の2年半はありますが、26年もの長い時間、和泉の空気を吸い続けられたことは感謝の極みであります。

永年勤続表彰者より③

あつという間の十五年

広報渉外・庶務ユニットリーダー

平塚 豊
(勤続十五年)



一九九二年六月に着任し、図書館、総務課での勤務を経て十五年目の今年、永年勤続の表彰を頂きました。微力な私を励まし導いて下さった多くの方々にお礼を申し上げます。

和泉との出会いは、新聞の求人欄に「図書館司書募集」の文字を見つけたのがきっかけです。あの時、新聞を開いていなかったら、そして、求人欄を見過ぎていたら、と思うと、縁とは本当に不思議です。これまでの年月を振り返ると、まさにあつという間でしたが、中身の濃い貴重な経験が出来ました。

図書館での十年余りは、将来に夢を馳せる多くの学生たちと向き合いながら、彼らに十分な資料と情報を提供したい、その一心で過ごしていました。また、総務課では、総合グラウンド、体育館の落成式典や一昨年に行われた創立五十周年の関連行事など、本学園の歴史の節目にかかわることができました。今は、広報の仕事を通じて、和泉の良さを、一人でも多くの方に伝え、志願者増につなげたいと考えています。私と和泉とを結んでくれた神様に感謝しています。これからも、縁を大切にしながら、毎日を過ごしていきたいと思えます。

永年勤続表彰者より④

導かれて和泉へ

経理・施設ユニット主任

川上 美智留
(勤続十五年)



大学の就職部に貼り出されていた一枚の求人票が、私の和泉との出会いでした。

当時世の中は、数年前のバブル景気の頃からは想像できない就職難。私のようなんびりした学生には厳しい時代でした。

「就職できないかも知れない…」半ば諦めながら訪れた就職部で見つけたのが「クラーク学園事務職員募集」の求人票でした。応募すると決めたたん、いろんなことがタイミングよく訪れ、とても不思議でした。今こうして十五年間和泉に勤め続けていられることを考えると、縁あつて導かれたのだと、改めて感じます。

就職して教務課に配属となり、最初の仕事、新生活へのオリエンテーションで実習について説明することだったと思えます。緊張しながらマイクを持ったことを思い出します。その後、経理課に異動し、今は日々数字と格闘中です。

この十五年間、いつのときも周りに暖かい教職員の方々に恵まれ、純粹で目的意識の高い学生さん達に刺激を受けられる環境に居られたことに、感謝の気持ちでいっぱい입니다。微力ながら、これからも和泉の為に尽力したいと思っています。

和泉福祉専門学校

大きな飛躍へ一歩後退、二歩前進 —これからの専門学校歩む道—



校長 豊福 義彦

期待に込めてきたにもかかわらず、何故？ 何故？ 正にその通りである。

わが学園のホームページに「専門学校の2010年3月閉校」というニュースを載せたら、案の定いろいろな方から「何故？」という問い合わせがあった。考えてみればわが和泉福祉専門学校は、今日の「介護福祉士」という名称が生まれる3年前から、「和泉老人福祉専門学校」（後に福祉専門学校と改めた）という名称で、高齢者や障がい者のケアに携わる専門のワーカーを育成すべくわが国で最初に創設した老舗の学校である。その老舗の専門学校を何故閉じなければならぬのか、ましてや今日の少子高齢社会にあって今後最も必要とされる専門の人材ではないか。この道のパイオニアとしてその役割を果たし23年もの永い年月、実に2200名に及ぶ卒業生を世に送り出し有意な働きを通して社会の

創設当初は一学年定員80名、二年制160名であったが、その後定員を100名にまでして社会的ニーズに込めてきた。それとともに専門教育の重要性に込めるために「社会福祉士及び介護福祉士」法の成立に伴い多くの養成校とともに社会の高齢化に向けた対応を果たしてきた。しかし昨年には定員を40名に下げて応募してきた受験生は37名という激減である。このような応募状況を踏まえて、将来の介護福祉のあり方を考えたときに、私たち専門学校の教職員は大決心した。それは児童や障害者や高齢者の社会的ケアが今後ますます必要とされる現実にしつかりと目を据え、彼らの社会的自立と自己実現に向けて質の高い介護を提供する社会的責任を果たすために、和泉短期大学へ改組し、保育士の有資格者又は有資格取得希望者に一年間の専攻科より専門性の高い介護教育を行なうことである。

そのために本学の建学の精神「愛と奉

仕」をモットーに、社会的に介護を必要とするすべての人々に、聖書が語る「わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり…」(ローマの信徒への手紙第15章1節)、「何事も愛をもって行ないなさい」(コリントの信徒への手紙16章14節)との言葉を実践することによって、今日の社会で介護に対するマイナスの評価を一新し、より正しく希望に充ちた再評価を受ける働きとすることである。

二〇〇七年度 専門学校教員研究業績

- 佐久間志保子専任教員
 - 〔著書〕 「2008社会福祉士国家試験模擬問題集」医学館 2007年8月
 - 〔論文等〕 「在宅医療廃棄物適正処理のための訪問看護ステーションにおける教育課題」 研究紀要 順天堂大学 2007年
 - 〔単著〕 「成年後見活動において身上に配慮した生活支援のあり方を決定する際のアセスメント項目の研究—社会福祉士を対象とした聴き取り調査の分析その1—」 研究紀要 東海大学健康科学部 2007年
 - 〔学会発表等〕 「在宅医療廃棄物の現状と廃棄システムの検討」 日本在宅ケア学会（二橋記念講堂） 2008年3月16日
- 共同
 - 「在宅医療廃棄物の現状と廃棄システムの検討」 共同
- 佐藤美紀専任教員
 - 〔論文等〕 「介護老人福祉施設における認知症高齢者と介護職員との関係性に関する一考察」 関東学院大学人文社会学部会 2007年3月31日
- 出村由利子専任教員
 - 〔地域講演等〕 「医療者のためのアロマセラピー」 英国IFPA東京支部セミナー（東京KKR会館） 4月7日
 - 単独

専門学校進路状況報告

今年度の卒業生79名のうち、就職希望者が71名、進学者3名、家事手伝い等5名でした。就職の内定者は67名で、卒業後にも就職活動を熱心に行い、自分の希望に沿った施設に決めた学生もいました。

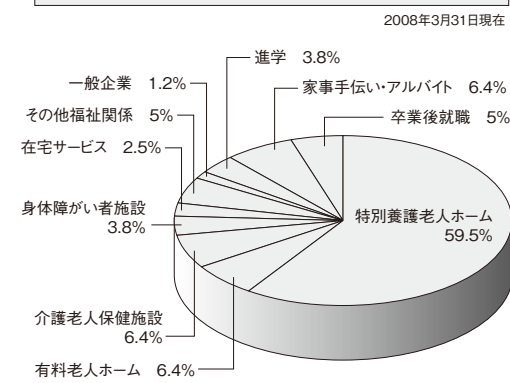
就職の求人票は昨年よりも多く、650件でした。施設の種別では特別養護老人ホーム、老人保健施設に次いで、有料老人ホームが多くなっていました。

就職活動は8、9月の実習終了後、10、12月に集中して行いました。就職決定率はほぼ95%に達しました。

今年度は、特別養護老人ホームが例年通り多いのですが、それよりも有料老人ホームや福祉機器販売の事業所などを就職先に選択した学生がいました。

このことは介護福祉士の仕事の多様性を踏まえてチャレンジする学生が増えた現れかと考えています。

2007年度進路決定先



2007年度決算書の概要

2007年度決算が5月24日(土)開催の評議員会ならびに理事会で承認されました。

その概要を説明いたします。学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、経営状態を表す「消費収支計算書」、財政状態を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。

資金収支計算書は、2007年度中の全ての資金の流れを表示した計算書です。資金収入の総額は2,761,406千円となりました。これに対し、支出した資金の総額は、950,956千円となり、2008年度に繰越される支払資金(現金預金)は、2006年度に比べて45,256千円増加して、1,810,450千円となりました。

消費収支計算書は、当該年度の収入及び支出の経費の均衡状態を表すことを目的にしています。収入の部においては、2007年度は入学者数の減少により学生生徒等納付金が前年度比78,440千円減収となりましたが、長期金利が上昇したため資産運用収入は、11,980千円増収となり、帰属収入合計は、1,004,789千円となりました。帰属収入の約89%を学納金に依存しているため、学生数の減少は、本学園の運営に甚大な影響を及ぼすこととなります。帰属収入は、学校法人の純資産を増加させる収入です。この帰属収入から第1号基本金である学校法人を継続的に保持していくための2007年度取得の固定資産(建物、備品等)を控除します。2007年度は、排ガス規制により走行できなくなったスクールバス4台等を除却したことにより、65,096千円が基本金取崩額になりました。第3号基本金は、奨学基金の果実である6千円組み入れることにより消費収入の部合計は、1,004,783千円です。

一方、支出面は支出の大半を占める人件費は、492,984千

円で帰属収入に対する人件費比率は49%です。教育研究経費は、256,175千円です。教育研究活動に要する経費全般について効率的な支出に努めました。管理経費は、総額で79,847千円です。法人業務及び管理部門の維持管理運営費の効率的、効果的支出を図り、経費削減に努めた結果です。消費収入の部合計1,044,783千円から消費支出の部合計830,852千円を控除した収支差額は、173,931千円の消費収入超過となりました。

貸借対照表は、2007年度末における当法人の資産、負債、基本金等の状態を示すものです。なお減価償却対象資産(建物、構築物、機器備品等)については取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。資産の総額は8,085,961千円です。前受金と退職給与引当金が大部分である負債の総額462,519千円を控除した純資産は、7,623,442千円で2006年度より173,937千円増加しました。

2008年度予算書の概要

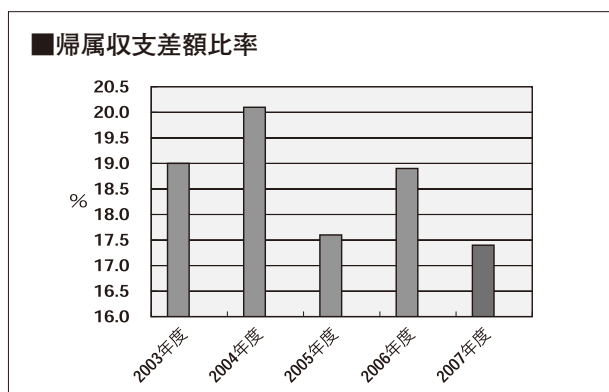
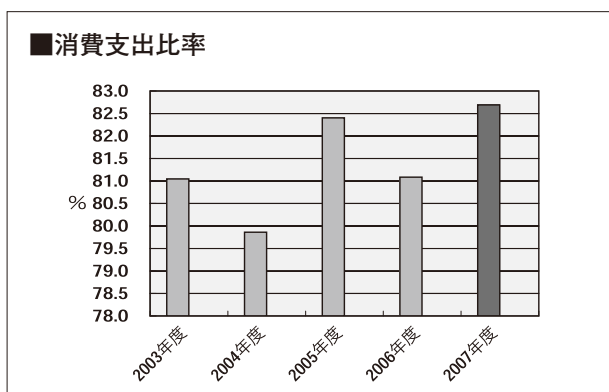
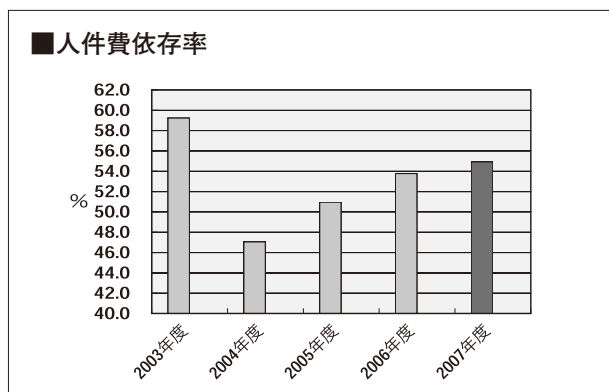
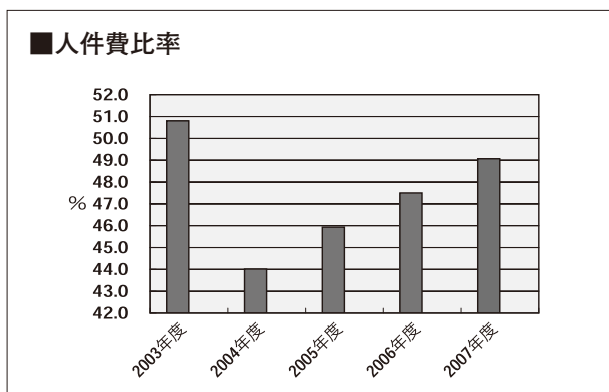
学校法人会計基準に基づく予算には、資金収支予算書と消費収支予算書とがあります。

資金収支予算書の資金収入の部合計は、2,653,689千円で、資金支出合計801,525千円との差額である1,852,164千円が次年度への繰越支払資金(現金預金)になります。前年度繰越支払資金より41,714千円増加の見込みです。

消費収支計算書の帰属収入合計は845,049千円です。専門学校の募集停止及び短大の入学定員の遵守により学生数が減少するため前年度比約150,000千円減収になります。基本金組入額は、10,943千円により消費収入合計は、834,106千円です。これに対して消費支出は、818,288千円で、15,818千円の消費収入超過となります。

(2007年度 事業報告書、財産目録、監事監査報告書は本学ホームページ上をご覧ください。)

消費収支計算書の財務比率の推移(2003年度～2007年度)



資金収支計算書(概要)

収入の部

(単位:千円)

科目	2007年度 決算額	2008年度 予算額
学生生徒等納付金収入	897,480	746,740
手数料収入	10,909	8,190
寄付金収入	2,374	550
補助金収入	48,472	46,100
資産運用収入	20,264	20,550
資産売却収入	2,520	0
事業収入	3,296	7,260
雑収入	19,474	15,659
前受金収入	228,210	203,750
その他の収入	61,341	38,654
資金収入調整勘定	△ 298,128	△ 244,214
前年度繰越支払資金	1,765,194	1,810,450
資金収入合計	2,761,406	2,653,689

支出の部

(単位:千円)

科目	2007年度 決算額	2008年度 予算額
人件費支出	495,813	473,113
教育研究経費支出	168,887	127,682
管理経費支出	71,691	110,799
施設関係支出	3,837	7,933
設備関係支出	3,254	4,267
資産運用支出	165,507	34,521
その他の支出	47,083	17,361
[予備費]		30,000
資金支出調整勘定	△ 5,116	△ 4,151
次年度繰越支払資金	1,810,450	1,852,164
資金支出合計	2,761,406	2,653,689

消費収支計算書(概要)

消費収入の部

(単位:千円)

科目	2007年度 決算額	2008年度 予算額
学生生徒等納付金	897,480	746,740
手数料	10,909	8,190
寄付金	2,374	550
補助金	48,472	46,100
資産運用収入	20,264	20,550
資産売却差額	2,520	0
事業収入	3,296	7,260
雑収入	19,474	15,659
帰属収入合計	1,004,789	845,049
基本金組入額合計	△ 6	△ 10,943
消費収入の部合計	1,004,783	834,106

消費支出の部

(単位:千円)

科目	2007年度 決算額	2008年度 予算額
人件費	492,984	468,856
教育研究経費	256,175	201,555
(減価償却額)	(87,288)	(73,873)
管理経費	79,847	117,877
(減価償却額)	(7,864)	(7,078)
資産処分差額	1,846	0
[予備費]		30,000
消費支出の部合計	830,852	818,288
当年度消費収入超過額	173,931	15,818
前年度繰越消費収入超過額	1,648,016	1,887,043
基本金取崩額	65,096	0
翌年度繰越消費収入超過額	1,887,043	1,902,861

2007年度貸借対照表(概要) 2008年3月31日

資産の部

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	6,253,189	6,197,271	55,918
有形固定資産	3,596,105	3,685,922	△ 89,817
土地	2,018,901	2,018,901	0
建物	1,377,987	1,436,813	△ 58,826
構築物	56,842	66,228	△ 9,386
教育研究用機器備品	50,673	70,649	△ 19,976
その他の機器備品	5,594	6,996	△ 1,402
図書	81,768	80,755	1,013
建設仮勘定	4,340	5,580	△ 1,240
その他の固定資産	2,657,084	2,511,349	145,735
電話加入権	690	690	0
施設利用権	1,081	1,171	△ 90
有価証券	0	20,000	△ 20,000
奨学貸付金	1,722	1,404	318
出資	2,810	2,809	1
定期預金	21,000	1,000	20,000
減価償却引当特定資産	2,036,638	1,951,138	85,500
退職給与引当特定資産	229,112	229,112	0
施設拡充引当特定資産	360,000	300,000	60,000
第3号基本金引当資産	4,031	4,025	6
流動資産	1,832,772	1,799,770	33,002
現金預金	1,810,450	1,765,194	45,256
未収入金	18,393	30,322	△ 11,929
貯蔵品	3,426	3,718	△ 292
立替金	503	536	△ 33
資産の部合計	8,085,961	7,997,041	88,920

負債の部

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	219,392	222,221	△ 2,829
退職給与引当金	219,392	222,221	△ 2,829
流動負債	243,127	325,315	△ 82,188
未払金	4,580	34,198	△ 29,618
前受金	228,210	279,735	△ 51,525
預り金	10,337	11,382	△ 1,045
負債の部合計	462,519	547,536	△ 85,017

基本金の部

科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	5,659,368	5,724,464	△ 65,096
第3号基本金	4,031	4,025	6
第4号基本金	73,000	73,000	0
基本金の部合計	5,736,399	5,801,489	△ 65,090

消費収支差額の部

科目	2007年度 決算額	2008年度 予算額	増減
翌年度繰越消費収入超過額	1,887,043	1,648,016	239,027
消費収支差額の部合計	1,887,043	1,648,016	239,027
負債の部、基本金の部	8,085,961	7,997,041	88,920
消費収支差額の部合計			

今後の財政の見通しについて

少子化による18歳人口の減少、4年制大学等の保育士養成校の増加、主務官庁による入学定員遵守の指導等、短期大学を取り巻く経営環境は年々厳しさを増し、私立大学の4割、短期大学の約6割が定員未充足の状況です。

入試改革として2009年度入試よりAO入試を導入します。帰属収入の約90%を学納金に依存している現状において、和泉短期大学は、入学者の定員遵守をしていかなければなりません。また、専門学校、学生募集停止により本学園の学生数は、大幅に減少することになります。よって、文部科学省の競争的資源配分の獲得に向けて本学独自の教育の質の向上を図るために2008年度「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」の申請を行うなど外部資金等の導入による経営戦略を検討しております。

一方、教育研究活動の維持向上と全般的な支出の削減とのバランスを保ちながら、一層の財政基盤の強化を図っていかなくてはなりません。

2008年度は、施設設備として学生用駐車場の整備、スタンドグラス2枚

の設置を行う予定です。2008年1月からは、新スクールバス4台の運行を外部会社に全面委託しております。

また、2007年度に学校教育法による短期大学基準協会の認証評価を受け、「適格」と認定されました。さらに学校法人の格付けとして外部機関の格付会社(株)日本格付研究所)により第三者評価を受け「BBB/安定的(トリプルBフラット)」の評価を取得いたしました。

入学定員遵守という厳しい規制の中で、学園の環境整備充実のために将来にわたり支出要因は多く、さらなる飛躍を目指して、今後は業務改善に取り組み、教職員一人ひとりがコスト意識を持ち、一層の合理的・効率的な支出に努め資金の有効活用をしていきます。

クラーク学園は、大学の社会的責任を果たしつつ、本学園に求められている社会的な要請に応じ、社会からの信頼を得るために、積極的に情報を開示し、説明責任を果たし、高等教育機関の理念である教育・研究・社会貢献を行い、キリスト教の精神に立った、充実した教育と健全な運営に取り組み、学園のミッションを果たして参ります。

学校法人クラーク学園 創立50周年記念事業募金・教育環境充実資金募金報告

●寄付者ご芳名(順不同・敬称省略)

短期大学在学生父母

阿部 修
新井 東
有賀 光雄
安西 英行
出水 宏侑
江藤 美昭
遠藤 謙悦
大日方 真二
香川 弘幸
久保田 一人
小寺 肇
小林 万人

佐藤 秀隆
須山 健二
高梨 好男
高橋 淳一郎
高野 昇
高橋 義一
滝口 和由
豊里 友彦
中川 宏
南雲 春代
新田 亮
芳賀 和夫
平井 文雄

深井 祐子
古矢 郁夫
細谷 澄江
溝呂木 勝
村野 敏江
矢内 秋男
山口 淳仁
山崎 文男
山崎 文男
山本 学
山本 泰史
横濱 武雄
古野 直樹

専門学校在学生父母

秋山 勝彦
塚原 英俊
若松 広美

専門学校在学生

谷田貝 なな子
団体
関処ソフトクラブ

2007年6月1日～

2008年6月13日

合計件数：43件

合計金額：364,800円

2008年6月13日までの総累計

累計件数：610件

累計金額：30,273,111円

この度は、クラーク学園創立50周年記念事業募金・教育環境充実資金募金の趣旨にご賛同賜り、多大のご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。

2007年6月1日から、2008年6月13日までに寄付いただきました方につきまして、感謝をもってご報告いたします。

なお、当局が受理しました日付で処理いたしておりますので、多少のずれが生じている方もありますが、何卒ご了承をお願いいたします。

事務局

本学園が短期大学法人で初の格付け「BBB / 安定的」を取得しました。

●格付け理由などの詳細は、短期大学のホームページでご覧いただけます。
http://www.izumi-c.ac.jp

学校法人クラーク学園は、株式会社日本格付研究所(以下「JCR」)より、長期優先債務格付け「BBB(トリプルBフラット)」の格付けを取得しました。短期大学法人として学校法人の格付けを公表するのは本学園が初めてです。なお、学校法人と事業会社は単純に比較はできませんが、同一の格付けとして、エスピー食品、ソフトバンクなどが挙げられます。

JCRより格付けを取得したことにより、本学園に対する公平・公正で客観的な第三者評価が得られたものと考えます。

クラーク学園は、今年度創立52周年を迎えましたが、教育、研究、社会貢献を行い、キリスト教精神に立った、充実した教育と健全な運営に取り組み学園のミッションを果してまいります。

人 事

◎法人

△就任(〇は新任)
理事長 任(〇は新任)

理事 深町 正信

理事 伊藤 忠彦

理事 但し、就任されるまでは、伊藤忠彦学長が兼職

理事 伊藤 忠彦

理事 岸川 洋治

理事 新町 正信

理事 深町 正信

理事 布施 英雄

理事 松田 壯吾

理事 宮坂 和武

理事 伊藤 忠彦

理事 豊福 義彦

理事 佐藤 公啓

理事 小椋 郊一

理事 新田 恭平

理事 秋山 信義

理事 小山田 小八郎

理事 小林 亨

理事 佐藤 蘭美

理事 佐久間 志保子

理事 中島 漢子

理事 藤川 文子

理事 藤川 文子

理事 山田 ひろみ

理事 伊藤 忠彦

理事 豊福 義彦

理事 佐藤 公啓

理事 平 良

理事 平 良

理事 保々 和宏

理事 眞鍋 恵三

理事 長睦 ずめる

理事 芝 敬一

理事 出村 由利子

理事 原田 康子

理事 中島 弘光

◎短期大学

△採用(〇は新任)
大下 聖治

中野 陽子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

藤川 文子

中村 美津子

△異動(〇は新任)
渡辺 角男

渡辺 角男

名雪 充美

中島 弘光

塩谷 香

△退職
吉田 耕也

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

△就任(〇は新任)
任(〇は新任)

△退任(任期満了)
出村 由利子

△退職(〇は新任)
藤田 美子

◆指定寄附金

眞鍋恵三氏(本学園評議員・前理事)より二〇〇八年七月十四日眞鍋記念奨学金基金として一〇〇万円のご寄附をいただきました。

お慶び

△誕生
古賀 綾子氏(短期大学生支援ネット職員)
次男 慧一(けいいち) 08・4・15誕生

表彰

全国保育士養成協議会 平成19年度教職員表彰者
村山 徳淳(学生支援ネットリーダー)

訃報

△故 田中 静氏
(短期大学教育・学習支援ネットサブリダー)
△故 中田 ヒサ氏
(御尊父 07・12・1)
△故 奥様御祖母 07・12・4
△故 渡辺 安喜氏
(短期大学広報渉外・庶務ネットサブリダー)
△故 渡辺 角男氏
(御令兄 08・2・19)
△故 神谷 和子氏
(短期大学教授 原田康子氏 御母堂 08・6・4)